

2 小学校 算 数

設問別調査結果 [小学校 算数A：主として知識]

分類・集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	数と計算	7	▼ 76.8	80.1
	量と測定	3	◆ 68.5	71.3
	図形	4	◆ 64.1	64.5
	数量関係	2	◇ 85.0	84.9
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	0		
	数量や図形についての技能	7	▼ 72.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	9	◆ 73.3	73.6
問題形式	選択式	5	◆ 69.7	70.5
	短答式	11	◆ 74.7	77.3
	記述式	0		

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3ポイント

← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3ポイント

(▼) 下回っている

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	札幌市	全国(公立)	札幌市	全国(公立)
1(1)	8.9-0.78の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ	小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができる	4A (2)アウ					○	◆	69.4	71.0	0.6	0.6
1(2)	5.2+0.7は0.01が何個集まった数かを表すための式として、ふさわしい数値の組み合わせを書く	単位となる小数の幾つ分で、小数の大きさを表すことができる	4A (2)ア 4A (5)アイ					○	◆	72.9	74.3	1.4	1.1
1(3)	小数の加法の結果を、減法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	加法における計算の確かめの方法を理解している	2A (2)ウ 3A (2)ウ 4A (5)イ					○	△	85.5	82.0	1.9	2.0
2(1)	28+72を計算する	繰り上がりのある2位数の加法の計算をすることができる	2A (2)ア					○	◆	98.0	98.2	0.3	0.2
2(2)	6.79-0.8を計算する	末尾の位のそろっていない小数の減法の計算をすることができる	4A (5)イ					○	◆	67.4	69.5	1.0	0.7
2(3)	5/9-1/4を計算する	異分母の分数の減法の計算をすることができる	5A (4)オ					○	▼	75.5	81.4	3.1	1.8
2(4)	5/6÷7を計算する	除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることができる	5A (4)カ					○	▼	68.7	84.2	12.8	4.1
3	午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める	日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる	3B (3)イ					○	◆	73.2	74.8	1.4	1.0
4(1)	90°、180°、270°、360°を基準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ	180°よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができる	4B (2)アイ					○	◆	78.3	81.3	0.5	0.3
4(2)	分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める	180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる	4B (2)アイ					○	▼	54.0	58.0	0.8	0.5
5(1)	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ	示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択することができる			3C (1)アウ			○	◇	50.7	50.6	2.3	1.6
5(2)	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の、角の大きさを求める	円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができる			3C (1)アイウ 5C (1)ウ			○	◆	63.7	64.5	3.5	2.4
6(1)	作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面の長方形の縦と横の辺の長さを書く	示された見取図の情報を基に、展開図に必要な面の大きさを読み取ることができる			2C (1)ウ 4C (2)ア 5C (1)イ			○	◆	75.0	75.4	2.7	2.1
6(2)	作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面を付けてかく辺を選ぶ	見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解している			2C (1)ウ 4C (2)ア			○	◆	67.2	67.6	4.0	3.4
7	ハンカチを5日間持ってきた人数が、学年全体の人数の半分より少ない学年は、4年生だけであることを示しているグラフを選ぶ	グラフに表されている事柄を読み取ることができる			3D (3)ア 5D (4)			○	◇	82.7	81.8	2.6	2.3
8	○を並べた図を基に式を読み、数に対応する○を黒く塗る	式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができる			3D (2)ア 4D (2)ア			○	◆	87.4	88.1	5.1	4.6

(△)上回っている (◇)ほぼ同程度だがやや上回っている (○)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▼)下回っている

【設問分析】

1 計算の能力

1は、計算の能力を身に付けているかどうかをみるものであり、計算の見積りに関する設問が1問、小数の計算を整数の計算で捉える設問が1問、計算結果の確かめに関する設問が1問の計3つの小数の計算に関する設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・ 小数の減法において、計算の結果を見積ることの理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

- ・単位となる小数の幾つ分で、小数の大きさを表すことへの理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(3)】

- ・加法における計算の確かめの方法を理解しているかどうかについては、全国の平均正答率を上回っている。

設問(1)と設問(2)は、全国の平均正答率をやや下回っており、目的に応じて結果を見積もったり、小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知り、数の相対的な大きさについて理解したりすることができるような指導が求められる。

設問(3)は、正答率が80%を超え、2、3年生で学んだ、整数の計算の確かめについての指導に成果が見られる。

2 四則計算

②は、整数、小数、分数の計算をすることができるかどうかをみるものであり、整数の計算が1問、小数の計算が1問、分数の計算が2問の計4問により構成されている。

【設問(1)】

- ・繰り上がりのある2位数の加法の計算については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

- ・末尾の位のそろっていない小数の減法の計算については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(3)】

- ・異分母の分数の減法の計算については、全国の平均正答率を下回っている。

【設問(4)】

- ・除数が整数である場合の分数の除法の計算については、全国の平均正答率を下回っている。

設問(1)、設問(2)ともに、全国の平均正答率をやや下回っているものの、設問(1)については、正答率が高く、指導の成果が見られる。設問(2)については、誤答の多くが末尾をそろえた計算をしており、位を意識した小数の加法及び減法の計算の仕方を考える指導が求められる。

設問(3)、設問(4)ともに、全国の平均正答率を下回っている。特に設問(4)については、全国の平均正答率が15%ほど、下回っており、過去の調査においても同様の傾向が見られる継続的な課題でもあることから、分数の計算の意味について理解し、それらを用いることができる指導が求められる。

3 時刻と時間

③は、日常生活の中で必要となる時刻を求めることができるかどうかをみるものである。

- ・日常生活の中で必要となる時刻についての理解は、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

正答率が80%を下回っており、具体的な場面で時間の経過をつかむような指導とともに、実際に時計の針を動かしてみるなど、具体物を用いた活動を取り入れた指導が求められる。

4 角の大きさ

④は、角の大きさを正しく測定することができるかどうかをみるものであり、 180° よりも大きい角について、およその大きさに関する設問が1問、角の測定に関する設問が1問の計2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・角の大きさの理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

- ・角の大きさの測定を理解しているかどうかについては、全国の平均正答率を下回っている。

設問(1)は、全国の平均正答率をやや下回っており、直角を基にして、角の大きさについての感覚を身に付けるような指導が求められる。

設問(2)は、正答率が60%を下回っており、設問(1)で大きさの見当を付けることができて、設問(2)において、正しい測定ができていないことから、測定の結果を振り返って確かめることができるようにする指導が求められる。

5 円と二等辺三角形

⑤は、二等辺三角形を円の性質と関連付けて捉えることができるかどうかをみるものであり、円の性質に関する設問が1問、二等辺三角形の性質に関する設問が1問の計2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・二等辺三角形や円の性質についての理解は、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問(2)】

- ・二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることについての理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

設問(1)は、全国の平均正答率をやや上回っているものの、正答率が60%を下回っているとともに、設問(2)は、全国の平均正答率をやや下回っていることから、図形についての観察や構成などの活動を通して、平面図形について理解できるようにする指導が求められる。

6 直方体の展開図

⑥は、直方体の性質と、見取図や展開図から読み取れる情報を基に、展開図から直方体を構成することができるかどうかをみるものであり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】【設問(2)】

- ・展開図における辺や面のつながりについての理解は、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

設問(1)(2)ともに、全国の平均正答率をやや下回っており、立体図形を観察したり、構成したり、分解したりすることを通して図形についての見方を豊かにする指導が求められる。

7 グラフの読み

⑦は、グラフに表されている事柄を読み取ることができるかどうかをみるものである。

- ・目的に応じて資料を集めて分類整理し、特徴を調べたり、事柄を読み取ったりすることについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

正答率が80%を上回っており、目的に応じて表やグラフを選び、活用する活動を通じた指導に成果が見られる。

8 式の読み

⑧は、式に表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができるかどうかをみるものである。

- ・式と図を関連付けることについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

正答率が全国の平均正答率をやや下回っているものの、正答率が80%を上回っており、図に表された数量の関係を読み取ってそれを式に表す活動を通じた指導に成果が見られる。

設問別調査結果 [小学校 算数B：主として活用]

分類・集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	数と計算	4	◆ 41.7	42.4
	量と測定	3	◆ 41.2	41.7
	図形	7	— 45.6	45.6
	数量関係	3	◆ 40.1	43.0
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	9	◆ 34.9	35.3
	数量や図形についての技能	2	▼ 54.5	58.7
	数量や図形についての知識・理解	2	◆ 74.3	74.9
問題形式	選択式	3	— 70.6	70.6
	短答式	5	◆ 40.6	42.2
	記述式	5	◆ 31.4	32.5

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3ポイント

ほぼ同程度 ← 全国平均正答率

(●) やや下回っている -3ポイント

(▼) 下回っている

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	札幌市	全国(公立)	札幌市	全国(公立)
1(1)	平行四辺形を構成することができる、四つの辺の組み合わせを選ぶ	平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している			4C(1)イ			○	◆	94.8	95.2	0.3	0.1
1(2)	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している			4C(1)アイ			○	◆	53.8	54.6	1.7	1.0
1(3)	二組の道のりが、それぞれ等しくなることを書く	示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を記述できる			4C(1)アイ			○	◆	26.4	27.7	17.9	14.3
2(1)	トマトを7個買うとき、最も安くなる買い方を選び、そのときの代金を書く	単位量当たりの大きさを用いて、目的に応じた買物の仕方を選択し、代金を求めることができる		5B(4)ア	4B(2)ア			○	▼	61.4	64.8	0.5	0.3
2(2)	20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く	示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる			5D(3)			○	◆	11.7	13.1	6.4	4.5
2(3)	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述できる			5D(3)			○	▼	47.3	51.0	15.9	12.8
3(1)	周の長さが24mの正三角形を巻き尺でつくるために、それぞれどの目盛りのところを持ってよいかを書く	正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求めることができる	3A(4)ア 4A(1)イ		3C(1)ア			○	◇	34.6	32.5	8.7	6.7
3(2)	合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、∠の角が30°になるわけを書く	正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、∠の角が30°になる理由を記述できる			3C(1)アイ 5C(1)イウ			○	◆	47.3	49.1	24.4	18.9
4(1)	四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く	四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することができる	4A(2)アイ					○	▼	47.5	52.6	3.2	2.4
4(2)	切り上げて計算した結果が10000であることから分かることを選ぶ	切り上げた場合の見積りの結果を基に、目標に達しているかについて判断できる	4A(2)アウ					○	◇	63.1	62.0	5.0	3.9
4(3)	目標に達するには、12月に3000個のキャップを集めればよいわけを書く	概数を用いた見積りの結果とそれに基づき判断を理解し、3000個集めればよい理由を記述できる	4A(2)アイウ					○	◆	21.5	22.3	18.6	15.3
5(1)	示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く	長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる	4B(1)アイ 5B(1)ア		2C(1)イ 4C(1)イ 5C(1)イ			○	◇	14.6	12.5	24.8	21.0
5(2)	示された図形の色がついた部分の面積を求める	条件を変更した場面に面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めることができる	4B(1)アイ 5B(1)ア		2C(1)イ 4C(1)イ 5C(1)イ			○	◆	47.7	47.8	19.8	17.3

(△)上回っている (◇)ほぼ同程度だがやや上回っている (—)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▼)下回っている

【設問分析】

1 事象の数学的解釈と根拠の説明(平行四辺形の性質)

1は、日常の事象の解決に、図形の知識及び技能を活用して、事柄を判別したり、判断したことを表現したりすることができるかどうかをみるものであり、3つの設問により構成されている。

【設問(1)】

・平行四辺形の構成についての理解は、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

・平行四辺形の作図に用いられる図形の約束や性質についての理解は、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(3)】

・根拠となる図形を見だし、その図形の性質について、言葉と記号を用いて記述できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

設問(1)(2)(3)の全て、全国の平均正答率をやや下回っている。設問(1)の正答率が90%を上回っており、図形の観察や構成についての活動を用いた指導の成果が見られる。設問(3)については、無回答率も高く、設問(2)とともに、図形の性質について調べる活動と、その性質を説明する活動を通じた指導が求められる。

2 場面の読み取りと処理・判断（おつかい）

②は、日常の事象の解決に、割合や単位量当たりの大きさを活用して、合理的かつ適切な判断ができるかどうかをみるものであり、3つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・単位量当たりの大きさをを用いて、目的に応じた基準量を求めることができるかどうかについては、全国の平均正答率を下回っている。

【設問(2)】

- ・比較量と割合から基準量を求めることができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(3)】

- ・百分率について、示されたものの中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述することについては、全国の平均正答率を下回っている。

設問(1)については、全国の平均正答率を下回っているものの、正答率が60%を上回っており、指導の成果が見られる。一方、設問(2)は、全国の傾向と同じく、基準量と比較量を混同した計算が多かった。数直線を用いるなど、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉える指導が求められる。設問(3)は、全国の平均正答率を下回っているとともに、無回答率も高いことから、筋道を立てて考え、表現する能力を育てる指導が求められる。

3 図形の性質に基づいた日常事象の解釈と説明（ライン引き）

③は、日常の事象の解決に、図形の性質を活用して、処理したり、判断の理由を表現したりすることができるかどうかをみるものであり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・正三角形の構成についての理解は、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問(2)】

- ・図形の性質を基に、合同が成り立つ理由を記述できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

設問(1)については、全国の平均正答率をやや上回っているものの、正答率が40%を下回っており、巻き尺などの計器を用いて適切に測定する指導が求められる。設問(2)については、全国の平均正答率をやや下回っているとともに、無回答率も高いことから、筋道を立てて考え、表現する能力を育てる指導が求められる。

4 見積の仕方と結果の判断（キャップ集め）

④は、日常の事象の解決に、概数や概算を活用できるかどうかをみるものであり、3つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・四捨五入について理解し、それを目的に応じて用いることができるかどうかについては、全国の平均正答率を下回っている。

【設問(2)】

- ・切り上げについて理解し、それを目的に応じて用いることができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問(3)】

- ・切り捨てについて理解し、それを目的に応じて用いることができるかどうかについては、全国の平

均正答率と比較して、やや下回っている。

設問(2)については、正答率が60%を上回っており、数を多く見積もることについて、指導の成果が見られる。一方、設問(1)は、全国の平均正答率を下回り、設問(3)は、全国の平均正答率をやや下回っており、目的に応じて計算の結果を見積り、計算の仕方や結果について判断したり、説明したりする活動を通じた指導が求められる。

5 図形の観察と根拠の説明（面積の2等分）

⑤は、長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された2つの図形の面積について、言葉や数、記号を用いて説明したり、正しく求めたりすることができるかどうかをみるものであり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・図形についての観察や構成などの活動を通して、分割された2つの図形の面積が等しくなる理由を記述できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問(2)】

- ・図形の面積を計算によって求められるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

設問(1)については、全国の平均正答率をやや上回っているものの、正答率が低く、無回答率が高い。設問(2)については、全国の平均正答率をやや下回っているとともに、無回答率も高いことから、面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動を通じた指導が求められる。

小学校 算数

児童生徒質問紙【教科に関する設問】	年度	【1】	【2】	【3】	【4】
算数の勉強は好きですか	H26	39.3	24.9	19.6	16.0
	H27	38.9	26.3	19.2	15.5
算数の勉強は大切だと思いますか	H26	70.5	20.1	6.0	3.2
	H27	72.0	19.5	5.5	2.8
算数の授業の内容はよく分かりますか	H26	41.5	33.7	17.7	6.9
	H27	42.6	32.9	17.3	7.0
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	H26	51.7	23.6	15.9	8.6
	H27	52.6	23.7	14.9	8.8
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	H26	41.4	33.9	18.2	6.3
	H27	43.9	32.9	16.8	6.3
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	H26	29.5	31.1	26.5	12.8
	H27	32.2	30.3	24.5	12.8
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	H26	60.9	25.1	9.6	4.1
	H27	63.4	23.8	8.8	3.8
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	H26	45.8	31.5	16.3	6.1
	H27	45.4	31.5	16.2	6.7
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	H26	48.7	32.4	14.0	4.6
	H27	47.8	32.1	14.4	5.4
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	H26	52.6	29.4	13.4	4.3
	H27	54.3	28.2	12.4	4.9

【1】当てはまる

(単位は%)

【2】どちらかと言えば、当てはまる

【3】どちらかと言えば、当てはまらない

【4】当てはまらない

<設問分析>

- 「算数の勉強は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が65.2% (26年度64.2%)となっており、全国平均を1.4ポイント下回っている。全国平均も低いことから、今後とも、算数的活動を通じて、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付くことができるような、分かる・できる・楽しい算数の授業を進めていくことが求められる。
- 「算数の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が91.5% (26年度90.6%)となっており、全国平均を1.6ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。今後とも、実生活における様々な事象との関連を図ったり、体験的な算数的活動を工夫したりするなどしながら、算数の価値や算数を学習する意義が分かるような授業を行うことが求められる。
- 「算数の授業の内容はよく分かりますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が75.5% (26年度75.2%)となっており、全国平均を5.5ポイント下回っている。今後、更に一人一人の学習実現状況を的確に把握し、個に応じた指導を充実することが求められる。
- 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が76.3% (26年度75.3%)となっており、全国平均を1.2ポイント下回っている。今後、既習を活用して新しい問題を解決することを大切に学習を充実することが大切である。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が76.8% (26年度75.3%)となっており、全国平均を2.8ポイント下回っている。今後、多様な考え方の違いや根拠を明らかにし、解決の見通しをもつことができるようにする学習の工夫が求められる。
- 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。」という質問では、肯

定的に回答した割合が 62.5% (26 年度 60.6%) となっており、全国平均を 5.2 ポイント下回っている。引き続き、日常生活の場面において算数が活用されているものを探すなど、算数の有用性を感じ取らせる指導の充実が求められる。

- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 87.2% (26 年度 86.0%) となっており、全国平均を 3.1 ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。今後とも、算数と日常生活との関連を図りながら、算数の有用性に気付かせるような指導の工夫が求められる。
- 「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 76.9% (26 年度 77.3%) となっており、全国平均を 2.2 ポイント下回っている。今後、より効率的な考え方を求めることを課題とした学習を充実するなど、課題意識を大切に学習の工夫が求められる。
- 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 79.9% (26 年度 81.1%) となっており、全国平均を 0.7 ポイント下回っている。今後とも、公式やきまりなど、一般化された考え方や解決方法を探究する学習や、見つけた公式やきまりなどを言葉で説明し理解を深めるような学習などを取り入れるなどの学習の工夫が求められる。
- 「算数の授業でも問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 82.5% (26 年度 82.0%) となっており、全国平均を 1.3 ポイント下回っている。今後とも、問題に見通しをもち、筋道を立てて考え、ノートなどに、その考えを表現する学習を取り入れ、表現する活動を通して考える力を高める指導の工夫が求められる。